



§ 1 ポストコロナに備えて

新年明けましておめでとうございます。

2022年が、皆様方にとって良い年となるよう祈念します。

2021年は、明けても暮れても新型コロナウイルス(Covid-19)に振り回された1年でした。ワクチン接種の進展や、治療薬の開発と次々と手はうたれているものの、まだまだ2年前の生活に簡単に戻ることは出来ないと思われ、感染予防に気を使いながらの事業活動、日常生活になりそうです。しかしながら、コロナの出現により、様々なことを考えさせられる機会にもなりました。リモートを利用した事業活動により時間と空間の効率化は図られるものの、人同士が現場で会うことの大切さも改めて思い知らされました。また、在庫を無くし翌日配送が当たり前であったコロナ前の状況で、海外からの輸入品確保の危うさ、流通在庫確保の重要性も再認識させられました。我々が扱う農業資材は、1年に1度しか使わないものも多く、ある程度の在庫という余裕をもつことも大切であると思われ、我々、卸販売業の存在意義のひとつがここにあるものと思われ。

昨年の気象状況を振り返ると、2月の集中豪雪被害、8月の長雨・日照不足、秋の高温と、予想外の天候に振り回されました。稲作の作況指数は良好でしたが、米価格の低下は著しく、今後も歯止めがかかるのかどうか微妙な情勢であります。野菜の価格も乱高下が激しく、生産者様にとっては大変な1年であったかと思われ。また、生産資材価格(肥料、ビニール、鉄材、燃料等々)の値上げが昨年春から継続しており、生産コスト増加の基調はしばらく続くものと思われ。コロナの影響による輸入商材の確保には、まだまだ困難な状況が続くそうです。必要な資材については早めの確保をお願いします。

農業業界では、水稲箱剤の原体供給不足による混乱もありましたが、例年並み実績でありました。しかしながら、原材料の高騰による商品価格の値上げや、海外生産による原体の輸入遅延や供給不足、メーカーによる商品登録の削除等、今後も、コロナによる影響、再評価制度による影響が大きくなっていくと思われ、現場での対応力が求められます。メーカーのM&Aや原体の売買はこれからも活発に行われると思われ。そして、昨年5月に発表された「みどりの食料システム戦略」では、環境負荷軽減の推進に合わせ、化学農薬使用量(リスク換算)の半減や、低リスク農薬への切り替え、化学肥料の使用量の30%低減が求められ、有機農業を100万haに拡大することが謳われ、業界としては大きな改革が求められています。時代の要請に応える対応が必要となります。弊社としても、いかに単位面積当たりの収穫量の最大化を効率よく上げるか、販売単価に反映できる高品質の農産物の生産ができるか、スマート農業の活用により、より効率的かつ低コストでの生産に寄与できるか等々、お客様のニーズにあわせた情報や技術、資材の提供を、お客様と一緒に考えさせていただきます。また、農産物の生産技術だけにとどまらず、フードチェーンにおける鮮度保持資材や、加工技術、輸送技等々、6次産業化だけにとどまらず、他産業も巻き込んだ技術開発はもっと進んでいくと思われ、SDGsの観点も踏まえ、我々も生産資材の提供だけでなく、農業を総合的にサポートする役割を果たしていく所存です。

昨年5月には、岐阜聾学校へ弊社の「やさいプラント mini」を、食育学習での活用だけでなく、農福連携における人財活用にもお役立ちできないかと考え、寄付させて頂きました。今後この分野も日本農業においては重要な役割を担うと思われ、様々な形でのご支援をさせて頂く所存です。

今年、弊社のキーワードは「功」です。お客様、仕入先様、関係者の皆様に認めていただける努力を継続することで、皆さまの成功に寄与し、功を頂くことができる活動を一所懸命させていただきます。本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願います。



§ 2 松くい虫の生態と被害のメカニズム

松くい虫被害は、マツノマダラカミキリにより運ばれたマツノザイセンチュウがマツの樹体内に侵入することで、水分の誘導が阻害されて松を枯らすことにより発生するマツの伝染病です。平成 30 年度の被害面積は全国 45 都府県で 35 万立方メートルと、被害ピークの昭和 54 年度の 7 分の 1 にはなっているものの、依然として増加している地域もあり、継続的な防除と監視が必要とされています。



マツノマダラカミキリ マツノザイセンチュウ

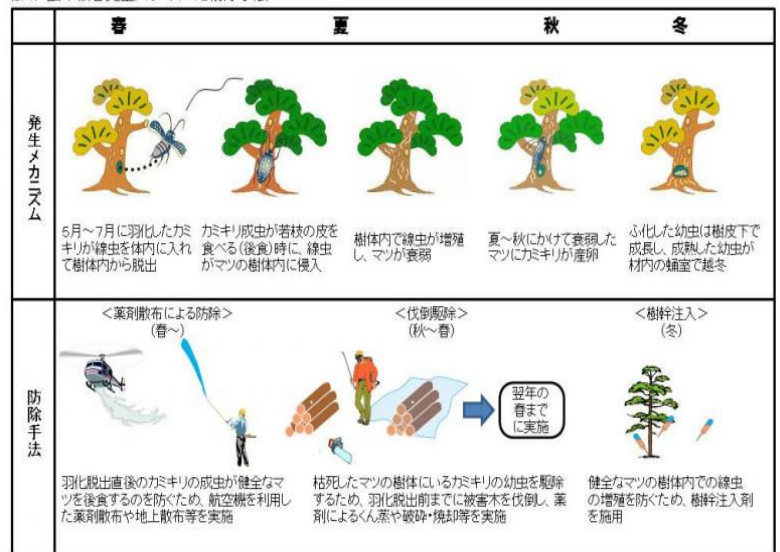
<松くい虫被害の診断>

- 1) 松ヤニの流出が少なくなる。
- 2) 古い葉(2~3年目の葉)から枯れはじめ、その後新しい葉が色あせ、短期間のうちに赤褐色に変色します。(乾燥が原因で枯れる場合には新しい葉から先に灰褐色に変わります。)

<マツノマダラカミキリ生態>

1. 6~7月上旬にかけて枯れた松から8mm程度の穴をあけて外に飛び出します。
2. 飛び出した後、枯れていない健全な松の1~3年生の若い枝の表面をかじって栄養をとります。(後食)
3. 7月上旬から8月末にかけて交尾を行い、枯れた直後の松に産卵します。
4. 卵は1週間でふ化し幼虫となります。はじめ樹皮部分を食べていますが成長するにつれ材部表面を食べるようになり、さらには松の体内に穴をあけて部屋を作り、そこから出入りしながら材の表面を食べます。
5. 11月頃気温が下がると松の体内の部屋にこもり、穴の入り口に木くずを詰めて越冬します。
6. 体内の部屋で越冬した幼虫は5月頃に蛹になり約20日間で成虫となり、その後1週間で枯れた松から飛び出します。

松くい虫の被害発生メカニズムと防除手法



注1)発生メカニズムについて、被害の発生時期などは地域の気候等によって異なるため、おおよその季節を記載している。
注2)「カミキリ」とは「マツノマダラカミキリ」を、「緑虫」とは「マツノザイセンチュウ」のことをそれぞれ指す。

<松くい虫被害防除方法>

1. マツノザイセンチュウの樹幹内での移動増殖の防止:樹幹注入剤や土壌灌注剤を注入します。
2. マツノマダラカミキリ成虫の後食を阻止する:松に薬剤を散布して予防します。
3. マツノマダラカミキリの幼虫を駆除する:伐倒駆除(幼虫が寄生している枯死木を伐倒して、殺虫剤を散布もしくは燻蒸する方法や、焼却・チップ化します。)

品名	成分	作物名	適応病害虫	使用時期	本剤使用回数	効果持続期間
グリーンガード・NEO	酒石酸モランテル 20%	まつ (生立木)	マツノザイセンチュウ	マツノマダラカミキリ成虫発生3ヶ月前まで	1回	7年
ショットワン・ツー液剤	エマメクチン安息香酸塩液剤	まつ (生立木)	マツノザイセンチュウ	マツノマダラカミキリ成虫発生2ヶ月前まで	1回	6年



* 薬剤を使用する場合には、登録内容を確認してください。